

Title	アイ・アム・ユア・ドクター プロジェクト
Author(s)	高倉, 公朋; 吉岡, 俊正
Journal	現代的教育ニーズ取組支援プログラム報告書, 平成17年度, 2007
URL	http://hdl.handle.net/10470/10652

(本様式は提出様式と記入例を兼ねています。)

平成17年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書

本調書は、平成17年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)の交付(内定)を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

1. 大学等名/設置者名	東京女子医科大学 / 学校法人東京女子医科大学
2. プログラム名	現代的教育ニーズ取組支援プログラム
3. 事業名称	アイ・アム・ユア・ドクター プロジェクト
4. 選定年度	平成17年度
5. 事業推進代表者/ 事業推進責任者	(所属部局・職名・氏名) 事業推進代表者 学長 高倉 公朋 事業推進責任者 教授 吉岡 俊正
6. 事務担当者 主担当、副担当を必ず2名記載して下さい。	主担当 (所属部局・職名・氏名) 教育研究資金室課長 堀切 信男 TEL 03-3353-8111(内線30351) FAX 03-3353-6793 E-mail nh002696@soumu.twmu.ac.jp
	副担当 教育研究資金室課長補佐 井内 潔 TEL 03-3353-8111(内線30352) FAX 03-3353-6793 E-mail ki009334@soumu.twmu.ac.jp
7. 選定取組の概要(400字以内)	平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムで選定された「アイ・アム・ユア・ドクター プロジェクト」は、医学部英語教育で臨床医学での英語会話能力を向上させ、卒業生が患者に躊躇なく「I am your doctor. How can I help you?」と言えるための日常診療に用いる英語コミュニケーション能力を開発することを目的とする。この取組では講義時間としては制限のある医学部英語カリキュラムの中で、臨床的英語の参加型・実践型学習、個人への学習支援などを通して学生の学習動機を高め、学生が自己学習するツールと、臨場的な学習環境を提供し、臨床場面での英語会話が行える医師を育成する。この目的のために教育カリキュラムの改良とともに、学生が年間を通して臨床英語に接する環境、学習動機を高め効果的学習を促進するフィードバックシステムの導入、および臨床的英語能力開発のための教員教育能力開発を行う。
8. 補助事業の目的・必要性	(1) 全体 本補助事業の全体の目的は、医学英語教育の中で臨床医学英語活用能力を高める教育の改善を図り、本学の教育目的である「至誠と愛」に基づく医療実践を行うことのできる医師養成に資することである。本事業では、各学年で通年的に臨床英語に接する機会を設定し、学生が動機を高めながら臨場感のある学習を行う環境を整える。学習ツールとしては自己学習ツール・臨床医学情報検索システム、カリキュラムとしてはサービ斯拉ーニング、英語教育カリキュラムの改良、国際交流における英語教育の改良、学生支援システムとして英語学習フィードバックシステムの導入、そして臨床英語教育に特化した教育能力育成として、英語教員・外国人教員の臨床医学教育の教育能力開発を行う。 これらのシステム・カリキュラムは平成18年度から漸次正規の授業に加え、自己学習を進められる環境を整え医学部における取組の充実・発展を図る。臨床における英語の活用で重要なのは患者の気持ちを理解しながらコミュニケーションすることであり、本事業が達成するのは単なる英語能力開発ではなく、教育目的である「至誠と愛」に基づく医療実践を様々な環境でも行うことのできる医師養成を図ることが全学的取組として拡充する意義である。 (2) 本年度 本年度は、臨床的英語コミュニケーションを行うための学習に必須である基本的臨床英語語彙の教育を充実させるために学習システムを開発し実用を開始する。また、臨場感のある環境で、英語コミュニケーションを学ぶことで学習動機を高め効果的な教育を行うための、

英語学習用臨床教材開発、教育方法の開発、英語学習についての学生へのフィードバックシステム構築・教員養成を行う。本事業は学生が自己学習による自己開発ができることが目標の一つであるが、本年度はそのための自己学習システム（ハードウェア・ソフトウェア）整備し実用化する。実践的な臨床医学英語コミュニケーション教育開発のために、国外の大学病院で情報収集を実施する。臨床倫理などプロフェッショナルリズムに基づく臨床英語コミュニケーション能力開発、実践的な英語教育についての情報を交換するための、研究会・フォーラムを主催し、新たな英語教育方略の研究を行う。

9. 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

- ① 11月 臨床英語学習教材開発・教育方法研究の実施
- ② 11月 臨床医学語彙自己学習ツールとしての臨床英語ボキャブラリーeラーニングコンテンツ（第1期）作成・導入、第2期システムの開発開始
- ③ 1月 英語コミュニケーション学習システムを導入した自己学習環境の設定と学生の利用開始
- ④ 11月、1月 大学主催学会・フォーラムでの実践的英語教育についての情報交換
- ⑤ 11月、3月 米国での臨床英語調査

10. 補助事業の内容（選定された取組をどのように実施するのか、事業の内容を具体的に記載して下さい。また、必ず、上記の実施計画と対応させるよう、箇条書きで記載して下さい。）

本補助事業は、選定された現代的教育ニーズ支援プログラムにおける「アイ・アム・ユア・ドクター プロジェクト」（テーマ4：仕事で英語が使える日本人）について、医学部英語教育の充実・発展を目指す補助事業であり、内容が以下のとおりである。

- ① 効果的な臨床英語教育を行うための、教材開発と教育方法開発を行う。臨床の素材を用いた英語教材の開発、臨床英語の語彙・第二言語における語彙の習得・語彙のスピーチレベル別使用とディスコースなどの研究・情報集積、および衛星放送やインターネットなどの情報を多角的に取り入れた教材開発を行う。サービスラーニングカリキュラム開発、客観的テストによるラーニングカリキュラムのアセスメント、臨床医学英語実習のための英語医療面接実習の開発と実施、および学生個人への英語学習フィードバックを行う教員養成を行う。
- ② 臨床医学語彙自己学習ツールとしての臨床英語ボキャブラリーeラーニングコンテンツ作成は第1期事業として基本的語彙1,000語を収納したツールを作成する。臨床英語に特化した語彙リストは既存のものがないので、独自に研究し策定する。策定された語彙を例文として作成しeラーニングコンテンツ化する作業を外部委託する。第1期を行いながら、学生が実際に使用した際のフィードバックを受けて、システムの改良を開始し第2期に設定する語彙（3,000語）の予備調査を行う。第2期システムは平成18年度に作成する。
- ③ 学生が英語の自己学習を行う環境を整備する。英語コミュニケーション学習システムとして、②の臨床医学ボキャブラリーeラーニングコンテンツを収納した自己学習システムによる教育を開始する。英語コミュニケーション学習システムはそのほか、英語による模擬診療を録音・録画・フィードバックする目的にも使用できる設備を整える。
- ④ 臨床医学の実践に必要な医療倫理にも配慮した英語コミュニケーションをいかに臨床医学英語教育に組み込むか、実践的英語教育全般の教育方法にはどのような工夫があるかを医学教育者、生命倫理研究者、英語教育者などで議論し、英語の「こころ」を含む臨床英語コミュニケーション能力の新たな教育方略を開発する。大学主催の会議として、平成17年11月に日本生命倫理学会を開催するがそのなかで生命倫理教育について議論する。この学会運営は外部に委託する。また1月には教育に関するフォーラムを開催し、現代GP採択取組みを中心に教育方略全般について意見交換を行う。
- ⑤ 臨床的英語コミュニケーション能力開発のために、英語で実際に臨床を行っている場面を含めた視察を行い、語彙形成、基本的英語力の策定、教育方略開発の基礎情報を得る。

これらを通じて、選定取組の更なる充実・発展させ、本学の教育目的である「至誠と愛」に根ざす全人的医療を、英語を用いる環境でも実践できる医師育成のための教育開発研究、カリキュラム作成・実施、教員教育能力開発を図ることが本補助事業の内容である。

11. 補助事業から得られる具体的な成果（学生教育の観点での成果を記載して下さい。また、必ず、上記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載して下さい。）

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下のとおりである。

- ① 1-1) 臨床的英語教材が充実し、4年生の臨床医学英語カリキュラムで臨場感のある臨床に即した英語教育が行われる。1-2) 英語による模擬診療カリキュラムが策定され、学生の臨場的学習が促進される。1-3) 学生が臨床英語学習に際して的確なフィードバックを受けることができるようになる。1-4) 翌年度以降に実施するサービスラーニングカリキュラムが開発される。1-5) 英語力アセスメントにより学生の英語力が適切に評価され、結果の個別フィードバックにより学生に合わせた英語力開発が行われる。
- ② 学生が臨床医学で用いる語彙を学習するツールの基本的語彙についてのシステム（第1期システム）が実際に使用され、学生の語彙学習が促進する。平成18年度以降に行われるシステム改良、語彙の増加のための準備研究が行われ、最終目標を3,000語として各学年で修得すべき語彙が明らかになる。
- ③ 学生の英語学習環境が整備され、語彙学習、英語の模擬診療・コミュニケーション学習が促進する。
- ④ 実践的英語を学習するための教育方略（方法）、評価についての知見が高まり、教育開発が促進される。
- ⑤ 実臨床で用いる英語を学習するための語彙、会話、スラングなどの生きた情報が得られる。この情報を基に1年、4年で行われる基礎英語・臨床英語授業が充実し、学生の実践的英語の知識ならびに活用能力が修得される。

12. 補助対象経費の明細

注1) 複数大学事業の場合であって分担金配分予定があるものについては、

①金額欄及び金額の合計欄に内数で()書きで記入して下さい。

②積算内訳欄は、主となる大学等と区分して外数で記入して下さい。

注2) 積算内訳欄に記載した経費について、上記「10. 補助事業の内容」の各項目の番号を【〇関係】と表示して下さい。

注3) 設備備品費に計上した設備備品が現在学内において代替できる設備備品がある場合は、計上することはできません。

また、設備備品の経費計上にあたっては、その利用頻度に留意するとともに購入する場合とレンタル(借料)による場合の費用比較を十分検討して下さい。

補助事業経費の総額(合計)		補助金の金額(申請予定額)		自己収入その他の金額	
①+②	(千円)	①	(千円)	②	(千円)
	16,000		16,000		0
補助金額					
	経費区分	金額(千円)	積算内訳		
補助対象経費	設備備品費	7,060	英語デジタル教材開発・保存システム一式 2,650千円【①関係】 パソコン 3台 1,400千円 ネットワークハブ1台 50千円 ネットワークスキャナー一式 700千円 HDD内臓DVDレコーダー1台 200千円 小型MDプレーヤー 10台 300千円 英語コミュニケーション学習システム一式 4,410千円【③関係】 ポキャブラリーリスニング用ヘッドホン等 ・ セルフラーニング用ネットワーク対応マルチパソコンワークステーション 570千円 ・ ポータブル・マイク一体型ラーニングステーション 3,780千円 ・ ヘッドホン 60千円 サーバー用PCおよびディスプレイ 240千円		
	旅費	1,380	外国旅費 1,240千円 米国教育調査(1人) アメリカ合衆国 11月 630千円【⑤関係】 米国教育調査(1人) アメリカ合衆国 3月 610千円【⑤関係】 国内旅費 フォーラム交通費 140千円【④関係】 (60千円×1名、40千円×1名、20千円×2名)		
	人件費	720	謝金 240千円 フォーラム講師謝金 240千円【④関係】 (1月、4人:60千円/1回) 雇用等経費 480千円 臨床英語非常勤講師 (一部の講師は外国人模擬患者を兼ねる) 15千円×32時間=480千円【③関係】 (3月:15千円/1h)		
	事業推進費	6,840	消耗品費(一式) 1,990千円 教材開発・教育研究用 1,690千円【①関係】 視覚教材、教材用書籍、教材作成用筆記具、記録紙、記録用電子媒体、記録紙・媒体保管用ファイル、トナー、診察用モデル・シミュレーター消耗部品、電子機器配線用コード・アダプター等 自己学習システム関連消耗品 100千円【③関係】 記録紙、記録用媒体、記録紙・媒体保管用ファイル、トナー、電子機器配線用コード・アダプター、投影ホワイトボード用マーカー、プロジェクター用ハロゲン電球、電池等 印刷製本費 80千円 教員養成会議用資料 80千円【①関係】		

		雑役務費 2,100千円 臨床医学ポキャブラリーeラーニングコンテンツ(臨床英語ポキャブラリー自己学習システム) 開発委託 2,100千円 【③関係】 (委託先: (株)成美堂、Reallyenglish (株))			
		会議費 120千円 フォーラム講師・運営委員弁当代 40千円 【④関係】 (2千円 x 20名) 情報交換会弁当・茶代 90千円 【①関係】 (3千円 x 30名)			
		委託費 2,500千円 生命倫理教育シンポジウム運営委託 1,500千円 【①関係】 英語客観テスト実施委託 1,000千円 【①関係】			
		交通費 50千円 カリキュラム開発会議交通費 50千円 【①関係】 (5千円 x 延10名)			
合計	16,000				
各年度の補助事業経費 (①+②) の合計額					
年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	合計
予定額(千円)	16,000	13,000	13,000	13,000	55,000

13. 設備費品費補足表

上記補助対象経費の設備備品費に計上した設備備品について、当該設備備品を購入した場合の利用頻度及び学内で利用可能な代替物品の有無について具体的に記載して下さい。

品名	数量	金額	納入予定時期	目的・使途・利用頻度
英語デジタル教材開発・保存システム	一式	2,650千円	H17.11.30	本設備備品は、選定事業における教育開発研究に用いる。継続的な、語彙・例文・画像の収集と保存のために用いるので、年間を通して2名の英語専任教員が年間を通して継続的に使用し、英語教材に関わる他の常勤教員ならびに非常勤教員が断続的に使用する。1日平均2名が2時間、年間250日の使用が予想される。英語教材に特化して情報管理するシステムは学内に代替できる設備備品はない。
英語コミュニケーション学習システム	一式	4,410千円	H18.1.31	本設備備品は、少人数教育環境を整え、パソコンを用いた自己学習を行いながらグループ討論も可能にするための特殊設計の作業机型ラックとパソコンおよびそれを結ぶネットワーク機器、さらに学習状況を外から観察する同様なグループ作業システムである。医学部の全学生(600名)が、年間平均6時間(1時間を6回)、職員・教員100名が年間4時間使用することを予想している。代替設備備品は学内にはない。

補助事業の実績
<p>①臨床英語教育のための教材開発と教育方法開発については、臨床医学で使用する語彙・教育コンテンツの収集を行った。語彙については卒前臨床教育に必須の医学英語単語を抽出した。また、現在英語講義を担当している外国人英語非常勤講師による英語の学生へのフィードバックの試験的实施を行い、次年度から本格的に実施するための準備を進めた。学生の英語客観テストを実施し、基本的英語力評価を行った。</p> <p>②臨床医学語彙自己学習ツールとしての臨床英語ボキャブラリーe-ラーニングコンテンツを作成した。第 1 期事業で予定より多い 1400 語の語彙を収集し、それぞれの単語の臨床医学での文例（使用例）を作成し、臨床英語ボキャブラリー自己学習システムを開発した。システム開発は外部委託し「Word Stream」という名称の学習ツールを完成した。</p> <p>③英語自己学習環境の整備を行った。自己学習用機器（セルフラーニング用メディア PC ステーション）を導入し、②で作成した Word Stream を使用できる環境を整え、学生の自己学習による英語語彙学習を行った。</p> <p>④臨床医学の実践で必要な医療倫理にも配慮した英語コミュニケーションについて情報を交換した。平成 17 年 11 月 19・20 日に日本生命倫理学会を主催し、「医のこころ」を含むコミュニケーション、国外の災害時の生命倫理と医療の実践と英語によるコミュニケーションなどについて情報を交換した。本学会には学生も参加し、5 年生 105 名が早稲田大学人間科学部学生と生命倫理についてのワークショップを行った。平成 18 年 1 月 28 日に東京女子医科大学特色 GP・現代 GP フォーラムを開催し、医学ではない他領域の「専門的英語」教育についての情報交換を行った。フォーラムは高等教育者ならびに一般市民に公開し情報を共有した。</p> <p>⑤臨床的英語コミュニケーション能力開発のための視察を行った。2 名の教員が米国の病院を視察し語彙形成、臨床医学コミュニケーションについての基本的英語力についての調査を行った。</p>
補助事業に係る具体的な成果
<p>①臨床英語教育コンテンツ収集が英語教育内容の充実となり、学生が臨場感のある実践的な教育コンテンツを利用して学習できるようになった。個人フィードバックシステムの導入により学生個々によって異なる英語学習上の問題点に対応できるようになった。基本的英語力評価の実施により、学生個人の英語力が明らかになり、フィードバックにも活用された。</p> <p>②臨床英語ボキャブラリーe-ラーニングシステム（Word Stream）開発により、学生が医学英語に特化した語彙学習をオンライン学習できるようになった。平成 17 年度は約 20 名の学生が試用開始し、10 コースを終了した。これらの学生は交換留学などで学習結果を活用した。また試用した学生からのフィードバックに基づき、学習者自身の選択の幅が適度に保証されていることにより、時間に無理なく（3ヶ月で240語）、継続的に自学自習していけるシステムが構築されていることが確認された。これにより、次年度から、2 年生以上の学生全員がこの学習ツールで自学自習していける態勢を整えることができた。音声、文脈をも考慮したプログラムによる医学用語の獲得は日常診療での英語コミュニケーション能力のしっかりした基礎作りには不可欠である。学生からのフィードバックにも、音が聞けるのでよい、発音も練習できいろいろな言語スキルが磨けるなどのコメントが多く、Word Stream の構成・デザインの妥当性についても確認されている。</p> <p>③自己学習環境の整備で、学生は学内外で英語学習を自分の望む時間に行うことが出来るようになった。本年度開始した英語自己学習ツールを全て学習できた達成率は 95% で、学習環境を整えたことにより学習が促進された。また、学習結果を教員が見ることが出来るので、学生個人への英語についてのフィードバック内容が充実した。英語コミュニケーション学習システムはシステム設計と作成に時間を要した。設置後海外臨床研修を行なう学生の臨床英語会話実習に使用され（20 名が受講）、国外実習時の臨床英語能力が向上した。</p> <p>④日本生命倫理学会の中で行った学生の授業（早稲田大学学生とのワークショップ）は学生が医師以外の観点から生命倫理についての考えを聞く機会になり、学会後の調査では学生、学会参加の教員にとっても有意義であったとの結果を得た。東京女子医科大学特色 GP・現代 GP フォーラムでは、医学だけでなく工学の英語教育の取組みが紹介され、専門分野での英語教育では実践的な内容（Context）に基づく教育が必要であることが明らかになった。実践的内容（文脈）による英語教育効果が明らかになり、実践的学習機会を促進する医学英語カリキュラムの導入を促進することになった。</p>

(注) 交付申請書の「補助事業の目的・必要性」、「本年度の補助事業実施計画」と対応させて分かり易く記入すること。